

第 1 回 日高圏地域医療構想調整会議に係る意見

議事名	意見内容
<p>1 報告事項</p> <p>「地域医療構想等に関する説明会資料の共有について」</p>	<p>・「医療資源が比較的充実した都道府県立病院が、中小規模の公立病院等との連携・支援を強化している」これは北海道には全く当てはまらない。どこに医療資源が比較的充実した道立病院があるのか。どこの道立病院が中小規模の公立病院を支援している実例があるのか。</p> <p>公立病院の現状を維持することを目的として『経営強化』を図るための計画を出し続けていれば、現状を維持できるという甘い対応では、公立病院が危機感を持つはずもなく、血税がドブに捨てられ続ける現状を容認していることにしかならない。経営強化が結実した事例があれば示してほしい。一つも無いと思う。</p>
<p>2 協議事項</p> <p>「地域医療構想推進シート（令和 3 年度実績）について」</p>	<p>・今後の日高振興局管内の大幅な人口減少とそれに伴う財政の緊迫化を考慮すれば、現在入院ベッドを持っている自治体病院・有床診療所が、入院ベッドの維持を基本に計画を立案していることが、ほぼ非現実的である。少ないベッドを維持しようとすることは、病院・診療所としての収益からみると最悪の選択であることは、医療経済では常識である。百歩譲って、自治体病院・診療所を将来にわたって維持したいのであれば、有床を放棄して無床診療所にすることが火急の課題である。これを前提としない議論には、ほとんど意味がないと考える。</p> <p>それよりも、自治体は、医療よりも介護こそが住民から求められていることに気づくべきである。気づいていたとしても、介護を優先順位の低位に置く行政では、積極的に介護難民を増やしていくことになる。そもそも介護は民間に委託すればいいというものであろうか。介護こそ、自治体が最優先課題として取り組むべき課題だと考える。</p>